

# 2021 AUTOBACS SUPER GT ROUND 5 スポーツランド SUGO

開催地：スポーツランド SUGO（宮城県）／3.586km

9月11日（予選）天候：くもり コースコンディション：ドライ 観客数：無発表

9月12日（決勝）天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：無発表

練習中のトラブルが決勝まで尾を引き、苦戦を強いられるもしっかり完走果たす！



スーパーGT はシリーズの折り返しをスポーツランド SUGO で迎え、第5戦「SUGO GT 300km RACE」を9月11～12日に開催することとなった。昨年は新型コロナウイルスの感染予防から、開催サーキットが限定されたこともあり、SUGO では2年ぶりのスーパーGT となる。加えて例年なら事前に行われる公式テストもなかったため、これまでとはまったく趣の異なるレースとなる可能性も十分あるだろう。

今年もスーパーGT に apr は2台体制で挑み、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」をドライブするのは永井宏明選手と織戸学選手。タイヤは信頼のヨコハマが使用される。

「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は、ここまで2戦連続で入賞。ツインリンクもてぎでは8位、そして鈴鹿サーキットでは6位で、ドライバーズランキングでも14位につけた。マシンの仕上がり、タイヤとのマッチングもさることながら、スタートを織戸選手が担当してポジションを上げ、永井選手がバトンを受け継ぐスタイルも正解だったようだ。前回はポールポジションを獲得した車両を、永井選手がかわしていくシーンは鳥肌が立ったほど。

この好調ぶりによってサクセスウェイトは24kgに達したが、比較的ウェイト感度が低いとされるコースにおいては、それほど苦にはならないはず。高速テクニカルレイアウトで、フルブレーキングを要するポイントが少ないことが、その理由である。3戦連続入賞なるか、期待は高まるばかりだ。



## 公式練習 9月11日(土) 9:30~11:05

8月は猛暑続きで、前回の鈴鹿のレースだけ温度は低めだったものの、9月になってからというもの、同じような天気が続き、聞き慣れない「夏の低温注意報」が出されたほど。搬入の行われた金曜日こそ晴れ間が広がったものの、土曜日は再びどんよりとした天気になっていた。

公開練習は9時30分から行われ、気温は21度、路面温度は23度と、予想どおり前回より低め。8月末にオートポリスでプライベートテストを行って、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」はさらなる進化が確認されていただけに、いきなり好タイムを出すことが期待された。今回も織戸選手から走り始めていたが、始まって間もなくスローダウンしているではないか！ SPコーナーで止まりかけたものの、なんとかピットに戻ってくる。



電気系のトラブルが発生し、修復に約40分を要するも、コースインした織戸選手はすぐにコースに戻ってくる。この後もピットイン~ピットアウトを繰り返すも、満足に周回を重ねることは許されず。続いて行われたFCY(フルコースイエロー)テストにも出走できず、永井選手は1周もできぬまま予選に挑まざるを得なくなった。

## 公式予選 Q1 9月11日(土) 14:48~14:58



今回の予選 Q1 に「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は B グループで走行し、前回同様担当したのは織戸選手。気温は 24 度、路面温度は 27 度と、公式練習より、やや高めだ。SUGO は 1 周が短いことも合わせてウォームアップは入念に、徐々にタイムを詰めて行く格好で行われ、計測 4 周目にアタックが開始される。

それまでの周回で、トラブルは解消されているのを確認していただけに、織戸選手は渾身の力を込めて、コースを攻め立てた。

そして 1 分 18 秒 552 をマーク。だが、Q1 突破にはもう少しタイムを詰めておきたいところ。そこでもう 1 周アタックするも、すでにアタックを終えていた車両にわずかながらも引っかかってしまい、1 分 18 秒 621 とタイムアップならず。

問題はポジションだ。しかし、わずかコンマ 1 秒及ばず 9 番手ということもあって、永井選手が待ち構える Q2 にコマを進められなかったがペナルティー車両があり 1 ポジション繰上り、決勝レースには 8 列目、16 番手から臨むこととなった。

## 永井宏明選手



公式練習でいろいろ不具合が出て、持込セッティングのチェックができなかったので、仕方ないと思います。SUGO に入ってから、まだ1周も走れていないんですよ。でも、トラブルは解消したので、決勝はぶっつけになりますけど、しぶとく走ります。もう対策もしましたので、同じトラブルはないと思います。ここからは上がって行くのみです。

## 織戸学選手



みんなに迷惑かけるぐらい、まったく走れなくて、クルマの状況も何もつかめないうちに、ぶっつけ予選になっちゃったので、残念でした。クルマのセットをもうちょっと調整できれば良かったんだけど、流れが悪かったですね。

最後までアタックをやめちゃったクルマが前にいたので、行き切れなかったです。ただ、クルマはだいたいいい方向に戻ってきているので、決勝で頑張ります。

## 金曾裕人監督

電気系のトラブルが公式練習であって、大事を取ってリア周りを全部バラバラにしてみたのですが、実際にはもう少しイージーな部分だったので、もっと早く治せたはずなんですけど、致し方ないですね。トラブルシューティングの判断ミスから走行が出来ずセットアップが進まなかったのは非常に痛かったです。ひとつ心配なのは、永井選手が乗れていないことで、今日0周でしたから。

クルマの方向性は見えているので、レースではどこまで行けるか。永井選手が最近、自信を持って走っているし、順応性は上がっていてクルマは手のひらにあるから、そこを楽しみにしています。追い上げは可能だと思うので、少なくともポイントは獲って帰りたいですね。



決勝レース（84 周） 9 月 12 日（日） 13:30～



前回に続いて、日曜日になると天気は良くなり、SUGO の上空には青空が広がっていた。きになるのは温度の上昇だ。しかしながら、決勝レースを前にして行われたウォームアップにおいて、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は絶好調。最初の 1 周だけ織戸選手が乗って、確認を行った後、ここでようやく永井選手にレースウィーク初めての走行が許される。

1 分 21 秒 116 をベストタイムに、1 分 21 秒台から 1 分 22 秒台の前半でコンスタントに走り続けていたのだ。このセッションの順位は 6 番手と好走を見せ、走行後の永井選手からも「決勝で挽回！」と力強い言葉も返ってきた。

さて、気になる気温は 29 度、路面温度は 46 度にまで達していたが、ウォームアップの感触からすれば、タイヤは問題なく対応してくれそうだ。もちろん、今回もスタート担当は織戸選手。果たして、今回はどこまで順位を上げてくれるのか？

フォーメーションラップは隊列が整わなかったということで、1周追加されてレースラップは逆に1周減算された。まずはオープニングラップ、織戸選手はポジションそのままに17番手でレースを開始する。だが、その後しばらくポジションアップを許されなかったばかりか、逆に11周目には1台に先行されてしまう。今回は我慢の走りを強いられた一方で、ライバルが早めのドライバー交代を行うたび順位が上がっていったのも事実で、レースのほぼ折り返しとなる41周目には、2番手にまで上り詰める。



織戸選手のロングステントは、予定どおり。これでアクシデントが発生し、セーフティカー（SC）が入るなり、FCY実施なりで直前にピットに滑り込むことができれば、一気に好機到来となる……はずだったのだが。GT500で車両火災が発生し無念にも44周目にSCが導入された。SCボード提示のタイミングと走行位置が合わず、ピットインがかなわず。

52周目にリスタートが切られ、その周に永井選手と交代した「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」ながら、それまでのSCとトップ車両の位置関係に恵まれず、コースに戻った時にはラップダウンとなっていたという大不運が……。



これで完全に勝負権を失ってしまったばかりか、61 周目の2コーナーで永井選手が追突され、スピンしてしまう二重の不運。それでも最後まで諦めずに走り抜き、トップから1周遅れの20位でレースを終えることとなった。



次回の舞台、オートポリスでは前述のとおりプライベートテストを行っていて、これまでのレース以上に事前の準備万端の状態での臨めることとなる。活躍を期待いただきたい。

## 永井宏明選手

SC で勝負権がすべてなくなっちゃったので、本当に残念なレースになってしまいました。僕のステイントでも後ろからぶつけられて、回ったりもしているんですが。

織戸選手が本当に粘り強く走ってくれていて、そのまま行けば、もうちょっといいレースできたかもしれない、って思いましたけどね。

次回のオートポリスで巻き返します！！

## 織戸学選手

まあ、しょうがないですね。。。

今回は公式練習をまともに走れなかったのが、クルマのセットを詰め切れなかったのが決勝にも響いて、厳しいレースになってしまいました。

次ですね！



## 金曾裕人監督



昨日、朝のフリー走行でトラブル出たところから流れが悪くなってしまって、さらにSCですね。心の叫びを言うと『今かよ!』って。

『これも時の運、これもレースだね』、というところで、クルマの良し悪し以上に、運に見放されてしまいました。クルマも、もうちょっと詰められたら、と反省しているところもありますが、全体的には悪くなかったです。

次のオートポリスではプライベートテストしていますからね、今度はドタバタすることなく、再びいい走りをしてくれると思います。

